



下五島地区カテキスタ養成講座を終えて 6/28福江教会にて



発行

カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959-00072
印刷・(株)才津印刷所

「島のひかり」ホームページアドレス

<https://shimanohikari.jimdofree.com/>

有難し日々

主任司祭 工藤 秀晃

先の「島のひかり」の原稿を準備していたころ、新型コロナウィルスによってもたらされた種々の事柄に対して幾分か戸惑いがあったものの、結果的には一時的なものでなくなり、三月二十二日に主日のミサを再開することができたこともあって、浅はかにも、まだまだどこか楽観的な思いや考えがあり、心にも余裕があったような気がします。

しかし、その後、再び公式ミサの中止や日本政府からの緊急事態宣言などを受けて、これまで「当たり前」と思って立ち振る舞ってきたことが、当たり前に行えないもどかしさ、特に、人との関わりや交わりから距離を置かなくてはならないひと月以上にわたる日々の連続は、本当に心が枯渇しかけていくと共に、様々なことを気づかされ、考えさせられる日々でもありました。

まあ、ほとんどの方がそうだと思うのですが、一つの出来事によってこれほどまでに「今日まで行ってきたこと」が覆され、変更せざるを得ない体験は初めてのことでした。しかも、それが個々人レベルのことでないということに衝撃を隠せません。

これまで、「日本人の九九%は、足りないものを手に入れることに幸せを感じる」と評されることが

ありました。つまり、焦点が常に足りないものに目がいくようにいつのまにか教育されてきたのだ。では、残りの1%の人はどんな人たちなのかと言え、大病をした人・災難に巻き込まれた人・子供が病気をもって生まれてきた人・障がい者になってしまった人などなど。そして、この1%の人たちは、普通であることが既にどれだけ幸せであるか知っている人であり、淡々と過ぎ去っていく日々が、どれだけ幸せかそれを知っている人たちだ。でも、今回の出来事で、この割合は大幅に変わったことだろうと思います。普通の日常が、どれだけ恵まれていたかに気づかされたことだろうと思います。

残念ながら私たちは、往々にして不幸や悲しい出来事を通して、実際に失うことを体験することによって、「実はすでに恵まれていたのだ」ということに気づくことの方が多くような気がします。でも、それでも気づくことができたのなら、せつなくならその気づきを一過性のものにするのではなく大切にしたいと思えます。

この先どうなっていくのか、まだまだ見通しはつきませんが、医療や様々な分野において、その最前線で身を挺してコロナウイルスと戦ってくださっている方々に心から感謝するとともに、願わくば、再び共に集い心あわせて気兼ねなく祈ることができる日々を取り戻すことができると、祈らずにはいられません。

工藤神父様の 霊名を祝う

六月二十八日の二番ミサの中で、聖ペトロの霊名を頂いている工藤神父様のお祝いをしました。小学生男の子二名で、霊的花束と生花の贈呈があり、その後、信徒を代表して六年、小田蒼海さんのお祝いの言葉があった。

工藤神父様、聖ペトロの霊名の祝日おめでとうございます。私は、このきかいに少し聖ペトロについて調べてみました。

聖ペトロは、もともと漁師でした。しかし、イエス様からのさそいを受けて漁師をやめ、イエス様にしたがいました。

イエス様が捕えられた時は、怖くなって「イエス様を知らないう」と言ってしまうましたが、それでも遠くに行くことなく、最後までイエス様の近くによりそいつづけました。そして、イ

エス様のご昇天された後は、よき牧者として最後まで命をかけて福音をのべ伝え、時には厳しく民を導かれました。神父様もけいこの時、分らないことがあると優しくよりそってくれます。けれど、ミサの時の姿勢、歌や祈りの時の声には、厳しく指導してくれます。

私達は、時には優しく時には厳しい神父様にとても感謝しています。また、浦頭教会は、聖ペトロに守られています。

神父様も聖ペトロに守られているので、私達をこれからも正しい道に導かれると確信しています。これから、暑くなりますが、いつまでも元気に過ごせますようお祈りしています。



最後にひとつのお願いがあります。できれば侍者旅行がなくなることを望んでいます。どうぞよろしく願います。今日は本当におめでとうございます。

六年 小田 蒼海そうみ

工藤神父様の 誕生日を祝う



七月十二日、二番ミサの中で工藤神父様四十八歳の誕生日をお祝いしました。

女性会よりお祝いの品が贈られ、評議会会計の浜口幸隆さんより、お祝いの言葉が述べられました。霊名の祝いも、誕生の祝いも飲み会も中止となった。

カテキスタ養成講座修了



六月二十八日、福江教会にて下五島地区カテキスタ養成基礎コース修了証授与式が行われました。

浦頭小教区では、四名の方へ資格証書が中村地区長神父様より授与されました。

中村神父様からお話しの中で、『イエス様を知らない人に、イエス様はどういう人で、どんなすばらしい生き方をしたか教えていって下さい』と伝えられました。次頁に感想を頂きました。

カテキスタ養成講座を うけて

濱崎 松一

実は、私、カテキスタ養成講座の受講をたのまれた時、何の考えもなしに「ハイ！」と答えていました。自分の年も考えずにです。ところが、講座を受けていて、後悔しました。特に、この一年のうちに物忘れがひどくなり、何をやっても前に進みません。「あら！コレはだめ」「あら！コレは違う」と最後は頭にきて、自分自身に腹を立てるばかりです。これで、果してカテキスタを勤めることができるか、はなはだ心配です。でも引き受けた以上、神父様や皆様の指導、助言を受けながら、自分なりに頑張っていくつもりです。子供たちの妨げになることのないようにと祈るばかりです。こんな私ですが、お祈りとご指導よろしくお願いいたします。



カテキスタ養成講座修了

赤尾 栄

長崎地区カテキスタ養成基礎コースを下島地区で受講させていただきました。同地区で十五名の受講生が居りました。浦頭小教区では三名参加しました。濱崎松一さん、赤尾克子さんと私です。二〇一八年十二月に始まり、二〇二〇年三月で終了でしたが、コロナウイルス感染防止の為、長崎でのカテキスタ証書授与式が出来ず、六月二十八日福江教会で講座修了式が行われました。今回の講座は、昔を思い出す事に意義があったと思います。約一年半で十分とは言えませんが、これからも各自が勉強し続けて下さいと言われています。また講座の時、足りなかった事やコロナで出来なかった事も後日行う予定だそうです。まだ頑張らないといけないようです。今すぐ教え始めることはありませんが、シスターさんの御手伝いが出来ればと思います。これからもよろしくお願い致します。

カテキスタ養成講座 を終えて

赤尾 克子

二年前に声をかけていただいた時、自分の勉強のためにも、との思いもあり受講することにしました。

しかし、他の受講者と比べ知識不足で気後れしたり、難しいことも多かったりと、講座を終え修了証をいただいたものの、人に教えるまでには至っていません。

受講者の中には、以前からカテキスタとして奉仕されている方もいらっしゃいました。

私はまだまだ勉強が必要ですが、子供達のため浦頭教会のために少しでもお手伝いができたらと思っています。

イエス様が教えてくださった主の祈りを大切にしながら…これからもよろしく願います。



カテキスタ養成講座を 終了しました

Sr中尾 菊代

カトリック教会のカテキズムを久しぶりに開きました。講座の最後は、模擬授業となっていたからです。私は、主の祈りについて発表しようと思っていました。自分が子どもの時に習ったのは、祈りを暗唱することでした。一年生の時に、全学年のけいこで、朝の祈りを丸ごと唱えることができると「もう帰っていいです」と言われたことがあります。でも主の祈りで大切なのは、唱えることよりも、唱えることばのひとつひとつに意味があるということです。祈りのことばに、わたし自身の願いや神様への態度を調和させていく必要があります。

このような意味でも、カテキズムは子ども中心のものではありません。わたしたちが、キリスト者として生きていくための基盤となるものです。是非、たくさんの方に興味を持っていただきたいです。ありがとうございます。

聖母祭

5/28

(平和のぼら保育園)



例年五月になると競うように教会に集い、老若男女が心を合わせ、世界平和とそれぞれの願いを込めて祈りを捧げていた聖母月。

今年は、コロナ感染症の蔓延で集まって祈ることはできませんでしたが、コロナ終息を願い熱心な祈りが捧げられた事と思えます。

保育園でも主任神父様において頂き、園内で五月の初めから

マリア様を讃えるために歌ったり祈ったりする事で、祈る心を深めて行ったように思います。特に「コロナ」を身近に感じるようになってきた子ども達の一途な願いを、マリア様が神様に取り次いで下さいますようにと祈った聖母祭でした。

園長 Sr川口 幸子

みじよか
小学二年生の
侍者に
エール
を!!

☆じしやをはじめました

小田 綺空

わたしは、じしやをはじめ「かみにかんしゃ」をいえたから、このままつづけたいです。それとちゃんと手をあわせたいです。

☆じしやをはじめたぼく

鍋内 ゆい

ぼくは、じしやをしてドキドキしました。おねえちゃんとして、安心したけど、むずかしかったです。だから、つぎにするときは、ちゃんとしたいです。

☆じしやをがんばったぼく

なべうち ひかる

さいしょは、どきどきしたけど、がんばれたからよかったです。これからは、タイミンクをきをつけたい。まえよりも、じしやをがんばりたい。あさみさもがんばりたい。

☆はじめてじしやをして

こばやし みさき

「かみにかんしゃ」は言えただけど、なれていないので、きんちょうしました。これからもししやをがんばりたいです。

鳥のさえずりに癒されて

Sr山添 春子

四月よりお世話になってます。上五島出身で三月までは、丸尾教会で奉仕させていただいていました。山の中腹に建つ白い教会で、朝の御ミサの時間には、目の前の水平線から朝日が昇り、すがすがしい気持ちになりました。

浦頭に来て三ヶ月が過ぎようとしています。修道院から教会までの道を歩きながら、鳥のさえずりに癒される毎日です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な規制の中の御ミサとなり、少しさびしい気持ちもありますが、個々の祈りを大切にしながら、神さまへの讃美と感謝を忘れずに過ごして行けたらと思います。

まだまだ、分からないことがあります。ありがとうございます。

おたより

島のひかりのお便り、楽しく拝読しています。

事務局の皆様のご活躍を心よりお祈りしています。

東京都葛飾区 本村久美様

十 主の平和

春風の心地良い季節となりました。工藤神父様をはじめ信徒の皆様、いかがお過ごしでしょうか。浦頭小教区で過ごさせていだいた二年間、本当にお世話になりました。様々な形でお支えを頂き、皆様のお陰で、及ばずながらも与えられた務めを果たすことができました。

新型コロナウイルスの影響で、復活祭に公にミサができないという異例の状況の中ですが、いのちの与え主である神様に信頼し、お世話になりました。

浦上サンタマリアの家
Sr 岩崎しのぶ

秘 跡

《帰天 主の平安》

マグダレナ 濱口 直美

四月十二日 浜泊

六十九歳

Sr モニカ 丸尾須美恵

五月二十七日

お告げのマリア修道会

奥浦修道院 九〇歳

” ありがとう ”

今回も次の方々より多額の御寄付を頂きました。感謝します。東京都 本村久美様、五島市 シスター 匿名様、五島市 半泊教会

ふる里だより

五島市中総体

●男子バレー 優勝

●女子バレー 準優勝

奥浦中学校校長 森 樹実人

新型コロナウイルスの影響に

より、開催が懸念されていましたが、「三年生のために」「これまで頑張ってきた子供たちのために」など、多くの方が開催する為の方法を模索し、無観客など特殊な形ではありましたが、開催することができました。あらためて御尽力いただいた関係の皆様へ感謝するばかりです。

女子(十四日)は、準決勝から富江中学校との試合。強打を誇る相手から、粘り強いレシーブと、ここ一番の決定力で勝利、2-0で勝利しました。決勝は、

新人大会で惜敗した福江中学校との試合。個の力で勝る相手に対し、チームの力で試合に挑む本校の選手たち。最後は涙をのむ結果となりましたが、最後まで勝負をあきらめないその姿は、これまで積み重ねてきた練習の成果でした。

男子(十五日)は、翁頭中学校との一騎打ち。二年生主体のチームで試合に挑みました。1点入るたびに、自分たちの力を実感している様子がうかがえま



した。しかし、2セット目は苦戦しました。特にサーブが入らず、序盤はリードされる展開。終盤になりメンバーチェンジで流れを変え、最後はメンバーチェンジで入った選手の速攻とサーブで試合を決めることができました。

三年生、これまで本当に良く努力し、厳しい練習を乗り越えて本当に良く頑張りました。人として素晴らしいものを手に入れたと思います。最後に、子供たちのために多くの方々にご支援を賜わりましたことを心から感謝いたします。

浦頭公民館 改修工事進む

六十年以上に及び風雨に耐え、今も地区住民と共に歩み続ける「浦頭の拠点」のリフォームが着々と進んでいます。

町内会長を中心に、一年に及ぶ話し合いの末、建て替えを二十年後に想定。積み立てを地道に続けながら、その時を待つ事が決定しました。改修を任せられた棟梁によると、「非常にしっかり作られた建物で、白蟻駆除さえしつかりやとけば、改修工事によって充分、長持ちしますよ」との事。

—夏の完成が待たれます。—



奥浦小学校田植え体験

雨が続き前日からの雨で開催が危ぶまれた田植え体験。奇跡的に当日は雨も止み、特別講師に山崎栄司さんを迎え無事に開催され、親子共々大盛り上がりな体験となりました。

まずは田んぼに馴れる為、親子で泥んこ運動会。田んぼの中でのかけっこ、ソリ引きリレー、そして綱引き。大人も子供も泥だらけになりながら走り回り、楽しそうでした。

前田川で泥を落とす後は、皆で並んで田植え体験開始。山崎さんの指導の元、どんどん苗が植えられ無事に終了。



子供も大人も大いに楽しめた田植え体験。次は稲刈り収穫。奥浦の子供達は元気一杯です。

五島ホタル



毎年の恒例行事となった、梅雨入り時のホタル鑑賞会。今年はコロナ禍の為、中止となった。

六月に入ってすぐ、気になったのか、足はいつもの場所「前田川のカッパ公園」に向かっていた。

まだ、見えない？目を凝らして、山際を上にあかのぼって：おっ。ぼっ、ぼっ、小さな光が小さく上に舞い上がっていく。しばらくすると、いくつかの点滅が見えた。

五島のゲンジ螢は、日本一速いリズムで光る事が発見され、話題になっている。明滅のリズムは、中部山岳地帯で東西で分かかれ、「東日本型」は四秒に一回、「西日本型」は二秒に一回。五島は一秒に一回明滅すると思う。来年は、きれいな螢達の「灯り」の下に集いたいと思う。

編集後記

年始から中国で原因不明の死亡が発生しているとの報道から七月現在、新型コロナウィルスはマスク不足、移動自粛、はたまた東京オリンピック開催の是非にまで及んでいる。

ここ五島でも、観光業には目に見えて影響があり、感染予防対策をしたミサは現在も続いている。

また、今年の梅雨は例年とは違い、毎日のように大雨が続いている。何十年に一度の大雨というフレーズを何度聞いた事か：。

備えあれば患いなし

この言葉のように、最近の私達は今までよりも備え（準備）ができるようになったのではないかと？同じように、今後の小教区維持の為の準備も進めていければと思う。